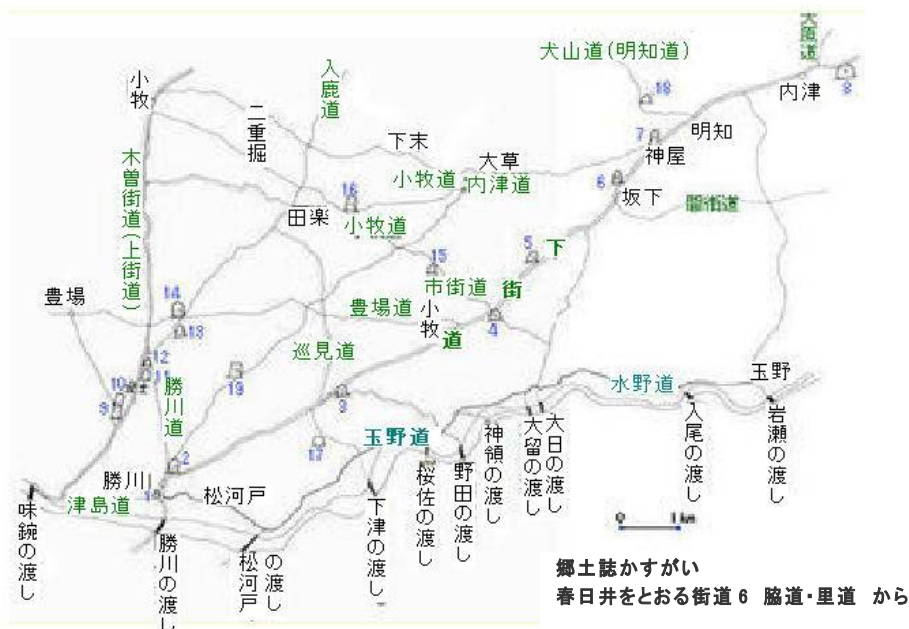


## (2) 庄内川の渡し

明治の初め頃まで物資の運搬にとって水運が重要でしたが、陸上交通の面からみれば川は大きな障害でした。江戸時代庄内川は軍略上の理由から橋がかけられず舟渡しでしたが、渇水期には仮橋を架けるところもあり、徒渡も随分あったと思われます。

街道はもちろん主要な生活道の近くには、対岸へ行き易い所を選んで「渡し」が造られていました。

先人たちがこの場所になぜ「渡し」や「橋」を造ったのかを考えてみるのもおもしろいと思います。庄内川にあった春日井市境の主な「渡し」を上流からからみてみます。



- ② 岩瀬の渡し ..... p440
- ② 入尾の渡し..... p440
- ③ 大日(大留)の渡し ..... p440
- ④ 野田(吉根)の渡し..... p441
- ⑤ 桜佐の渡し..... p441
- ⑥ 下津の渡し..... p441
- ⑦ 松河戸の渡し..... p442
- ⑧ 勝川の渡し..... p443
- ⑨ 味鋺の渡し..... p443

松河戸文化科学探求隊  
 隊長 長谷川 浩  
 080-3657-7052  
 松河戸町の沿革ホームページ  
<http://matsukawado.com/>

## ① 岩瀬の渡し

玉野と対岸の岩瀬(古地名)との間にあり、今は玉野橋がかかっている辺りにありました。両側とも峡谷になっているため、水量の多い時は流れが速くとてもこわかったといえます。内津、外之原方面から水野・瀬戸や定光寺へ通じる近道でした。昭和10年頃仮橋が完成するまででありました。

## ② 入尾の渡し

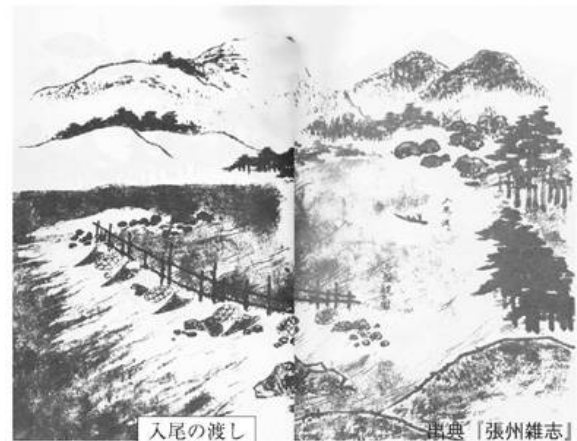
この渡しは、玉野川峡谷の終了地点(愛知環状鉄道の橋梁の直下)辺りにあり、高蔵寺と入尾(古地名)を結び、春日井郡の村々から水野代官所へ行く場合や、玉野道から定光寺へ出て、下半田川から中馬南街道を木曾方面へ通じているので、この辺りの中心的な渡しでした。

渡し賃を取るだけでは不足するので、周辺の村々が分担金を出して必要経費をまかしていました。

急流で危険を伴う渡船であったので、明和2年(1767)尾張藩の御船奉行から運航の指示書も出されており、渇水期には板橋が架かっていました。

中央線の高蔵寺駅が明治33年に開設されて、瀬戸方面からの往来が増えて大賑わいになったため、兩岸を結ぶ鋼鉄線を張ってこれと船をロープでつないで引っ張る方法をとったそうです。

明治43年に鹿乗橋が完成して渡しはなくなりました。



入尾の渡し、 出典 張州雑志

客2人を乗せた小船が入尾から高蔵寺へ向けて玉野川を渡っている。  
その下流には木杭を打ち小枝を詰めて川を堰き止め、打盤艘を入れてアユをとる仕掛けが造られている。

## ③ 大日(大留)の渡し

志段味橋上流約100m、旧大留橋やや下流にあり、上大留の大日堂(禅源寺)の前と中志段味を結んでいた。

大日堂には舟頭が常駐し弘法の祭りの時には大いに賑わったといえます。

天正12年(1584)「小牧・長久手の戦」の折には、秀吉側の池田・森軍が渡河したところでもあります。

大正13年、大留橋がかかるまで渡しがありました。



大正13年に本流部分に架けられた木造の橋  
この橋が架けられるまで、大日の渡しがあった。

## ④ 野田(吉根)の渡し

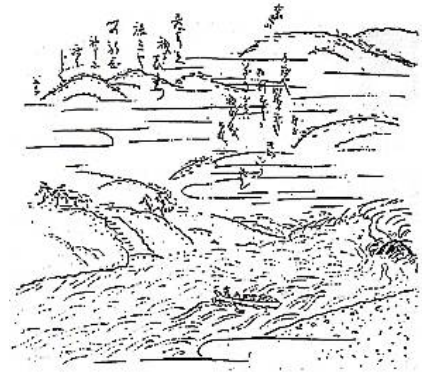
吉根橋の下流 150～160m 辺りにあり、密蔵院の南の野田 と 守山の吉根を結んでいました。

川幅が狭く流れが緩やかな浅瀬を、渇水期には歩いて渡り、増水期は渡船にて渡っていました。

大正時代には、吉根の郷船と呼ばれる 20 人乗りの船で、渡し賃は 2～5 銭の志で、村の費用を加えて運営されていました。

船頭さんは岸近くの小屋に待機して、客があり次第対応していました。

天正 12 年(1584)「小牧・長久手の戦」の折りには西軍堀秀政隊がこの渡しを渡ったと伝えられています。



野田の渡し、内津神社保管  
絵:『内津道中記』より

棹で漕ぐ船頭が 6 人ほどの客を乗せて庄内川を渡している。  
春日井側手前は河原となり、守山側は崖を上ったところに建物が 2 棟描かれている。

## ⑤ 桜佐の渡し

庄内川と内津川の合流点近くにあり、桜佐の水神様の石碑の前から吉根へ、通常は徒歩(かち)にて渡り、増水期には渡船が出ていました。

舟頭は吉根と桜佐におり両岸には舟小屋があり、地元の人々は無料、他は志として少々の渡し賃を取り、舟頭には謝礼として吉根村から米や麦が贈られていました。

内津川合流点より約 200m 上流の庄内川右岸には霧堤がありました。上条用水の改修や堤防道路の完成とともに霧堤は姿を消しましたが、内津川左岸にその一部が残っています。



春日井市桜佐町の庄内川堤防下に祀られている「水神様」。

## ⑥ 下津の渡し

松河戸の渡しから上流へ 2Km のところに「下津の渡し」がありました。

下津尾から龍泉寺への道にあり、流れの緩やかな淵で、広い河原の中に、船着き場まで道ができていました。

対岸の龍泉寺の下へ着いたので、初観音(正月 18 日)や節句のときは参拝の人たちが多く利用しました。

昭和 14 年(1939)頃までは通常に運航されていましたが、昭和 13 年に松河戸に橋が架けられたことで昭和 17 年(1942)に廃止されました。



現在の下津の渡し跡

下津の人達によって記念として建てられた。



船賃は大正中期から昭和 13 年頃までは片道 2 銭でした。

また竜泉寺の節分や初観音の時など利用客が多い時は、本流のみに橋を架け片道 2 銭(往復 3 銭)を取っていたこともあります。

昭和 40 年(1965)頃まで、龍泉寺の節分や初観音の時にだけ運航して参詣の人々が利用していました。

舟は笹舟で木曾川からの払い下げを購入し、料金は片道 20 円、往復 30 円で、県の許可のもと「渡し賃」が取られていました。

松河戸の人たちも、この時期は松河戸橋があってもこの渡しを利用して龍泉寺へ行ったものです。



『春日井・小牧の昭和』樹林舎  
1962 年(昭和 37)頃



下津の渡し(1962 年(昭和 37)頃)

## ⑦ 松河戸の渡し

現在の松川橋の下流約 150m(河口から 25.2Km)の浅瀬を笹舟(小舟)により運行し、江戸時代、渇水期には水の深い部分だけ板橋を設けて人馬を渡していたようです。

享保 5 年(1720)に橋が架けられたことがありましたが、勝川村の訴えで取り払われました。

(勝川の渡しとの権利争い。当時勝川村は宿場的機能があり一帯に大きな力を持っていた。)

大正時代の終わりには両岸に綱を張り、それを手繰って操船していたといえます。

古くは松河戸村が運行を担当していましたが、大正時代には川村が担当していました。

昭和 8 年(1933)流れの部分にのみ小橋が架けられ渡しは廃止となりました。

天正 12 年(1584)4 月 8 日「小牧・長久手の戦」の折り西軍秀吉方の三好秀次隊 8 千人が長久手を目指してここを渡河したといわれています。

【参照(p146)3 暮らしと川 (5)渡しと橋】



庄内川に浮かぶ船 (明治 33 年年頃)

現在の松川橋の下流約 150m(東雲の松辺り)の浅瀬を笹舟(小舟)により運行し、県道の渡し場で運賃は無料だった。山の上に龍泉寺が見える

白沢小学校 15 周年記念誌『白沢のながれ』より。



松河戸釣人(『名区小景』三編より)

『名区小景』(小田切春江著、弘化 4 年・1847)の版画の一つに「松河戸釣人」として描かれている。

庄内川で魚を釣る人が 5 人、下流の流れの狭い所に木の橋が架けられている。馬を引いた人が渡っている。

## ⑧ 勝川の渡し

庄内川を渡る下街道は、現在の勝川橋のやや上流にあり橋がなかったが、渇水期の秋から春は仮橋を架け渡し賃を徴収していました。

橋から上がる収益は近くの村にとっては重要な収入源でしたが、渡し賃の配分、修理代などを巡り勝川村・瀬古村・松河戸村と明治時代に橋が架けられるまで紛争が続きました。

また、渡しについては、藩からの助成はとくにないので、船頭の給金の不足分は近隣の村々が負担していました。

堤には酒肴を売る店などあり、多くの人々が利用し賑わっていたといえます。

天正12年(1584)「小牧・長久手の戦」の折には東軍家康隊がここを渡河し、小幡城に入城しています。



勝川の里 嘉永元年頃の勝川仮橋 名区小景より

庄内川の対岸から遠望した勝川の里が描かれている。守山の瀬古側の堤防上には大きな3本松が、近景とし描かれ、川中には仮橋がかかり小さな小屋が1つある。

人や馬の通行はなく、静かなたたずまいである。

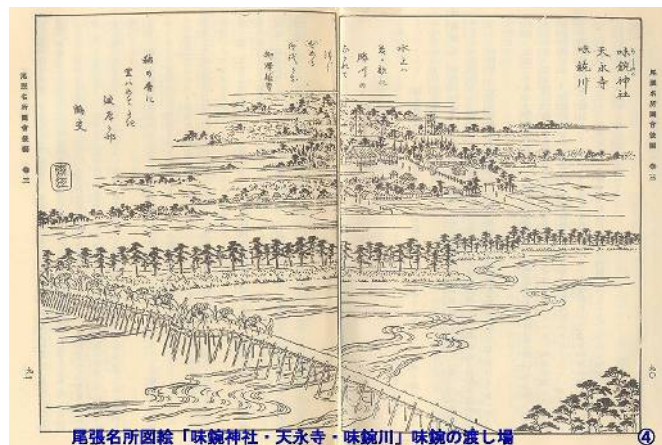
勝川里の背景には、犬山方面の山並みが描かれ、その前には松河戸の里、右手に春日井原の丘陵が延びている。

## ⑨ 味鋺の渡し

「尾張洵行記」に「小牧街道味鋺川渡場 9月ヨリ3月マデハ仮橋、3月ヨリ9月マデハ舟渡ナリ、此横越船、先年御船手役所ニテ造作アリ、水主ハ村方ニテ八人ツツ出、上七十ヶ村問金住来人馬賃銭ヲ取来レリ」とあります。

江戸時代には、季節によって渡る方法が違っていました。

また、渡しの代金は「味鋺川渡船馬一駄八文、商人五文、平人四文、大水ニハ一五文二〇文、又ハ八文七文、水涸ニハ涉リ不苦也」渡船・仮橋ともに木曾街道(本街道)は藩の公道(藩が管理していた)だったため、下街道の勝川の渡しよりも代金が安かったようで。



## 参考資料

郷土誌かすがい第20号春日井をとる街道7 庄内川の渡し

郷土誌かすがい第66号春日井をとる街道24 図会にみる景観

郷土誌かすがい第73号庄内川の水運

名古屋市守山区歴史散歩 守山区を巡る橋

庄内川の渡しメモ